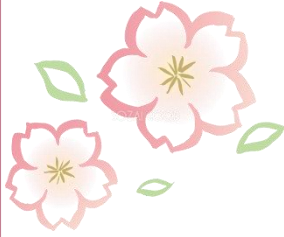


2026年4月号



# はっけん

九州手話サークル連絡協議会

<http://www.kyusyuren.org/>

## 佐手連学習会&交流会をしました

2026年2月15日（日）10時～15時まで学習会&交流会をしました。きこえる人約90人、きこえない人約25人の参加がありました。

午前中はスポーツをテーマにした学習会。2024年は国スポ・全障スポ開催。2025年は東京デフリンピック開催。佐賀県からは4人の選手が活躍しました。2026年は9月に全国ろうあ者スポーツ大会 in 佐賀が開催されます。その機運を更に盛り上げるため開催しました。

午前中は佐賀県聴覚障害者協会理事長中村稔氏によるデフスポーツの歴史と東京デフリンピックをテーマに講演。さらに全国ろうあ者スポーツ大会 in 佐賀の事務局長山口拓夢氏による説明会を行いました。

午後は全国ろうあ者スポーツ大会 in 佐賀に選手として参加するソフトボールチームとボウリングの皆さんにインタビュー。意気込みなどを語っていただきました。その後1グループ10人くらいに分かれて楽しくおしゃべりをしました。

佐賀県 手話サークルむつごろう会長 高倉尊広



## 耳の日記念の感想

恒例の耳の日記念の集い、今年は唐津市の相知交流文化センターで開催されました。朝、9時15分に、佐賀福祉センターで辻田さん運転のバスに乗り込み、予定通り11時15分着。12時からの開催に臨みました。

セレモニーの力強い「唐津港太鼓」の音に圧倒され、次に開会の挨拶、実行委員長、理事長の挨拶と続き、記念講演デフWの「ろうあるあるコント・トークショー」。デフWのピッタリと息の合ったコント、動作、身振りに目を見張り、音声は無くても視ることで、瞬時に理解し、同時に動き、身振りに繋げていく、その視る力に驚きでした。

来年の開催地は伊万里、ゲストはどんな方でしょうか。とても楽しみです。

佐賀県 ひまわり手話の会 小原教恵



# 大分県「耳の日集会 in さいき」

2026年3月1日（日）／さいき城山桜ホール

コロナ禍を乗り越えて、佐伯市の城山桜ホールにおいて、今年も耳の日集会が開催されました。

手話エンターテイナー、役者、国際手話通訳者など多方面で活躍されている那須映里氏を講師に迎えての講演、昼食を挟んでお楽しみ抽選会と、午前～午後にわたる集会でした。

第1部では、開会のことばかり始まり、聴障協会に貢献された団体、個人に対し表彰状・感謝状贈呈、関係者の祝辞と紹介等の式典がありました。



第2部では、テーマ「見えない差別と それに対抗するちから～デフレジリエンス～」と題した那須氏の講演会が行われました。



デフレジリエンスとは、ろう・難聴者が社会的障壁や心理的困難（聴覚に関する差別や言語的疎外）に直面した時、それを乗り越えて自己肯定感を保ち、前向きに生きる能力を意味すること。それを、自分の体験談も交えて分かりやすく説明

していただき、会場の参加者にも問いかけながらの興味深い講演でした。

講演のあとは、美味しいお弁当を食べながら、久しぶりに会った仲間たちと近況報告も交えての交流も深めることができました。

午後は、待っていた「お楽しみ抽選会」。講師を務められた那須氏もプレゼンターになっていただき、地元・佐伯地域のお米や海産特産物など、たくさん用意された賞品番号が発表されるたびに、会場のあちこちで歓声があがっていました。☆残念ながら、1個も当たりませんでした……。



大分県では、今回をもって「耳の日集会・大会」は一区切りをつけるとのことでした。協会の減少及び開催地のスタッフなどの高齢化もあるとのこと、とても残念なことです。

大分市 “はぐるま夜の部、：中村 義成

# 鹿児島県「手話で話そう県民の集い」

耳の日のイベント。3月15日（日）鹿児島市内で、県内各地から300人を超える参加者を迎えて開催された「手話で話そう県民の集い」。

手話やきこえない人たちの事、聞こえる仲間のことを広く県民に知ってもらおう、という取り組みです。

例年は、昼食を挟んで午前の部と午後の部があるのですが、今回は初の午前中だけの開催でした。

講師は（一財）全日本ろうあ連盟前理事長 石野富志三郎氏による『手話はいのち ～わたしの歩んだ半世紀～』という演題で講演がありました。

運転免許証取得までの道のりやろう夫婦の聞こえる子どもが正当な医療を受けられず亡くなった話、民法11条や優生保護法、多くの怒りや不当な差別をなくすための署名運動などなど…本で読むよりグッと刺さりました。

石野氏自身も大変苦勞されていたことを知りました。いつもおだやかな手話からは想像もできませんでした。

- ・講演会の時間があっという間だった
- ・昔の差別、理解のなさに悲しくなった
- ・手話に学ぶ、手話表現だけでなく手話を通してろう者やろう文化を学ぶことが大事だと思った

などの感想も頂きました。

集いの最後には、お楽しみ抽選会があり、それは、それは大盛り上がりでした。

1年に一度、懐かしい人に会える日でもあります。

また来年会いましょう。あちらこちらで約束が交わされていました。

鹿児島県 富園・池田



## 福岡県 耳の日記念集会に参加して

福岡県ろうあ者耳の日記念集会。今回初めての参加でした。

私は通訳者養成講座を受講したばかり。日本語に頼らない表現を身につけることの大切さを繰り返し学び、まだまだその足りない技術に反省する日々です。

この集会では、まずデフリンピック選手による『報告』があり、続いて重田千輝氏と村上信次氏による『二人の手話くらべ』の講演がありました。講演中の手話くらべでもデフリンピックをテーマにしたものがあり、それが非常に印象的でした。手話表現される内容がまず文章として示され、のちにお二人の手話表現を見るというものです。私は、デフリンピックの応援に行けていません。しかし、先の報告の後にお二人の手話を見た時、開・閉会式や競技の場に居るかのような気分になりました。



デフリンピックの様子が説明された「言葉」としてではなく、「感覚」そのものとして伝わってきたのです。手話を見ている最中の私は、開会式に参加していました。たくさんの選手や観客の様子が見えます。待ちわびた開幕の時を楽しむ歓声が聞こえます。各競技会場では、試合に奮闘する選手たち。そして、輝くメダルを手にし喜ぶ様子をたくさん見ました。



閉会式の厳かな場。「鳥肌の立つ」と文章で表現された数々の感動の中で、4年後に向けてゆっくりと閉じられる大会閉幕の瞬間。その余韻とともに静かに終わっていく雰囲気を感じ、本当に鳥肌の立つ感覚がありました。まるで、先の報告で拝見した写真が、二人の手話比べで動画になり、さらに自分自身がその中に飛び込んだような感覚になったのです。

私は現在、手話という言語を「学ぶ」立場にいます。しかしそもそも言語の起こりは、きっと目の前に居る相手に何かを伝えたいという「思い」であったはずですが。技術の習得は当然必要不可欠なものですが、学ぶことそのものに重きを置き、技術や技法をどう駆使するかばかりを頭で考えるだけではいけないのだろうと思いました。私は、自分が感じた感動や興奮を日本語で伝える時、その感動がどうしても薄れるものだと感じてなりません。しかし、手話は違うように思います。日本語として表せない具体的な表現がたくさんできるからです。手話は、日本語よりももっと感動や思いを伝えられる言語ではないかと思います。私に足りない表現技術を身につけるのに必要なのは、心から伝えたい「思い」であり、その思いを乗せて手話を使うことが大切なのだと思い改めることができました。なにより、手話という言語がより魅力的に感じた一日となりました。最後に、この集会に参加したことでろう者との新しい出会いもありました。実りの多い集会に参加させていただいたことに感謝します

## 福岡県 耳の日記念集會に参加して

第55回耳の日記念集會に参加し、多くの刺激を受けました。

第1部デフリンピック報告会では、メダル獲得の感動を分かち合い、第2部ではシュールなピクトグラム演出に会場が爆笑に包まれました。

特に第3部の手話くらべでは、単語を並べるだけでなく、文章の意図を汲み取り視覚的に状況を浮かび上がらせる表現に圧倒されました。「目で見て伝わる」という手話の本質と大切さを深く学び、今後の交流に活かしたいと感じた一日でした。

北九州手話の会 小倉南支部 佐藤登美子



## 熊本県「令和7年度県わかぎ研修会」を開催して

去る2月8日（日）、熊本城ホールに於いて「令和7年度県わかぎ研修会」を開催いたしました。

その日は県内の手話関係のイベント等が重なり、参加者が少ないのではないかと懸念していましたが、120名を超える申し込みがあり、研修部としてはホッと胸を撫で下ろしました。

しかし、何と当日は心配していたとおり、朝から雪で阿蘇わかぎの皆さんをはじめ、数名から「今日は行けません」との連絡がありました。講師の前川先生をはじめ専属の手話通訳の方は前日から来熊されており、また、今回、会場予約の都合もあり、初めて午後から開催としましたので、どうにか無事、開催にこぎ着けました。



さて、11時からの講師、司会者及び情報保障担当の打ち合わせも一通り終わり会場に向かうと、持参されたパソコンとの相性なのか、プロジェクターの投影において接続トラブルが発生し、10分遅れの開演となってしまいました。前川先生や同行された手話通訳の方がゆっくりお弁当を食べる時間もなく、慌ただしく開講してしまっ



たことは申し訳なく思っています。講演が始まると、参加された皆さんは話に釘付け状態でした。ルー大柴の「ルー語」を例えに分かり易く説明いただき、また、これからの学習会での参考となるヒントも頂きました。ろう文化について詳しく学べたことも良かったですね！後半のワークショップでは、表現方法を考え、工夫することを学びました。言葉通りではなく、具体的に伝えることの大切さを学びました。

あつという間の前川先生の講演とワークショップで、もっと聞きたいという思いに駆られましたが、期待した以上に成果があったのではないのでしょうか。寄せられたアンケートを見ても、多くの方から「とても良かった。是非また聞きたい。」などの言葉がありました。2月という时期的な天候の問題や機器の接続トラブル等、ハプニングもありましたし、何より、私の拙い司会進行ではありましたが、皆様のお陰で無事、成功裏に終えることができました。ご支援、ご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。

あつという間の前川先生の講演とワークショップで、もっと聞きたいという思いに駆られましたが、期待した以上に成果があったのではないのでしょうか。寄せられたアンケートを見ても、多くの方から「とても良かった。是非また聞きたい。」などの言葉がありました。2月という时期的な天候の問題や機器の接続トラブル等、ハプニングもありましたし、何より、私の拙い司会進行ではありましたが、皆様のお陰で無事、成功裏に終えることができました。ご支援、ご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。

あつという間の前川先生の講演とワークショップで、もっと聞きたいという思いに駆られましたが、期待した以上に成果があったのではないのでしょうか。寄せられたアンケートを見ても、多くの方から「とても良かった。是非また聞きたい。」などの言葉がありました。2月という时期的な天候の問題や機器の接続トラブル等、ハプニングもありましたし、何より、私の拙い司会進行ではありましたが、皆様のお陰で無事、成功裏に終えることができました。ご支援、ご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。



熊本県 鹿本わかぎ 森 米子

## 長崎県手話サークル連絡協議会創立 50 周年記念事業

### に関わって見えてきたもの

いづはら手話サークルみんなの手 梅野恵子（長崎県）

皆さん！対馬をご存じですか？韓国とは49.5キロ福岡からは132キロの国境の島です。南北82キロ、最北端の鰐浦では、天気の良い日は、釜山の街並みが肉眼で確認できる「国境の島」です。そこを活動の場とする、いづはら手話サークル「みんなの手」があります。

サークルは平成6年11月21日にスタートして30数年を超えて地域に根差した活動を続けています。長年の会員の努力を改めて考えさせられます。

サークルの会員としての活動年数の浅い私は、初めて長崎県手話サークル連絡協議会の50周年記念事業の実行委員を務めました。

50周年という節目の記念事業はサークル会員にとって感慨深いものである事は紛れもない事です。会議はZoomを使って進められ最初は、慣れない操作で戸惑いがあり、対面式の会議とは違って距離感を覚えました。どうしても自分の意見を言い出せないジレンマを感じたものでした。しかし、以前とは違って離島も参加できるようになったのも、Zoomのおかげです。

驚いたのは、実行委員の知識、経験、情報など、その場を経験しないとわからないことばかりでした。また、40周年事業に関わった実行委員の意見を参考に、課題を共有して検討、改善を繰り返し50周年記念事業は、離島参加者を含め172人が参加し、サークル紹介・出し物、ご当地クイズ、健康体操など楽しく、そして盛大のうちに終わりました。次回に繋げる、課題も見えてきました。

今回、Zoom・ライン等使って長崎の手話サークルが繋がりました。できるものです。

現在、対馬では聴覚に障害がある70歳以上の方が330人在宅で暮らしておられます。高齢者が多く、社会的な支援が必要な年代でもあります。情報は耳から入るのが殆どでその為、情報を得る事が難しいろう者は、社会から取り残される事があるのも事実です。私はサークル活動を通じ、まだ繋がっていない人と繋がり、社会から取り残されない安心安全な暮らしを共に考えて行きたいと思いました。

これからも「繋がり、繋げる」。



# 【全国の手話サークル連絡協議会と Zoom ウェビナー による情報懇談会を開催】

全国の都道府県手連（サ連）と Zoom を活用したオンライン会議やウェビナーを通して、各地の活動事例や課題を共有しています。今回、3月28日（土）に開催した第10回情報懇談会（主催：東京都手話サークル連絡協議会、協力：福島県手話サークル連絡協議会、熊本県手話サークル「わかぎ」）では、昨年11月に開催された「東京2025デフリンピック開催記念」と題して、全日本ろうあ連盟スポーツ推進委員会事務局長であり、東京2025デフリンピック日本選手団の総務を務められた山田尚人氏による講演を行い、全国22の都道府県から総勢124名のオンライン参加がありました。



デフリンピック開催に至るまでのご苦労やデフアスリート支援の必要性、サインエールが生み出した会場の一体感等のお話を伺いました。また、第二部では、熊本わかぎの足立さんをはじめ4人の方から、物凄い倍率の中から当選し活躍した大会ボランティアの体験

談や落選したけれども観戦して盛り上げた話等、貴重なお話を伺いました。

運営ホストは熊本、司会進行は東京都、パネリストは東京や福島、そして熊本のご自宅を繋ぎ、手話通訳は福島県から遠隔で配置いただきました。YouTubeによる見逃し配信も行いました。

なお、この「全国の手話サークル連絡協議会による情報交換」の輪は、現在28都道府県に広がっています。共通の課題や成功事例を共有しながら、今後も連携を深めていく予定です。

熊本県わかぎ 森 保夫

## 【編集後記】

やっと桜が咲いた。と思ったら、春の嵐を思わせる雨と風でひらひらと桜吹雪が舞っています。今年はいくさんの桜を見る事ができました鹿児島県の通信員です。

3月3日耳の日に各地で開催されたイベントの数々・・・どれも楽しそうです。

今回も、皆様のご協力を得て「はっけん」発行できました。

ありがとうございました。新年度が始まりました。

また、次の大会でお会いできることを楽しみにしています。



九州手話サークル連絡協議会 発行責任者：池尻和吉 事務局：川上順子